

2025年1月20日

2024年度 学校関係者評価報告書

学校法人森ノ宮医療学園
森ノ宮医療学園専門学校
自己点検・評価委員会
学校関係者評価専門部会委員会

学校法人森ノ宮医療学園 森ノ宮医療学園専門学校 自己点検・評価委員会 学校関係者評価専門部会委員会は、2023年度自己点検・自己評価報告書に基づき、以下のとおり学校関係者評価を実施いたしました。

1. 学校関係者評価専門部会委員（「森ノ宮医療学園専門学校 学校関係者評価に関する自己点検・評価委員会規程施行細則」による選出区分）

- ・鍼灸師または柔道整復師関連団体役員（同施行細則第4条第1項第1号）
 廣野 敏明 氏（公益社団法人大阪府鍼灸マッサージ師会会長）
 金光 寛和 氏（公益社団法人大阪府柔道整復師会副会長）
- ・本校卒業生（同施行細則第4条第1項第2号）
 赤丸 敏行 氏（森ノ宮医療学園専門学校卒業生）
- ・本校に在籍もしくは卒業した学生の保護者または保証人（同施行細則第4条第1項第3号）
 浜田 暁 氏（森ノ宮医療学園校友会会長）
- ・高等学校校長または高等学校校長経験者（同施行細則第4条第1項第4号）
 中井 孝典 氏（元大阪府立高等学校校長）

2. 基準項目ごとの学校関係者評価・意見

- 開催日時：2025年1月19日（日）14時00分～15時05分
- 開催場所：森ノ宮医療学園専門学校 理事長室
- 出席委員：廣野敏明、金光寛和、赤丸敏行、浜田暁、中井孝典（敬称略）
- 欠席委員：なし
- 陪席者：清水尚道（校長）、由良拓巳（教務部長）、外林大輔（柔道整復学科長）、矢納秀司（学務課長）

《基準1 教育理念・目的・育成人材等》評価結果：適切である。

《基準2 学校運営》評価結果：適切である。

- ・貴校は10年近く学生募集に力を費やしてきたため、大きな目標を掲げることが難しかったのではないかと。

《基準3 教育活動（鍼灸学科）》評価結果：適切である。

- ・以前は少し振るわない年もあったが、2023年度に全国平均を上回る結果となったのは良かった。
- ・学生の退学抑制と国家試験の合格率の2つが大きな課題であろう。
- ・これまでと異なり業界のニーズが多様化している。特に鍼灸接骨院での実費診療が増えてきている。対応が必要ではないか。
- ・鍼灸師が機能訓練指導員として働くというような選択肢も増えてきている。介護分野をどのように教育内容に含めていくのが学科の課題であろう。
- ・2022年度からのカリキュラムでは基礎実技に今まで以上に力を入れており、安心安全な鍼灸治療の確立を目指している。
- ・退学者は1年生が圧倒的に多くて、2年生、3年生になるとかなり少なくなる。
- ・鍼灸学科では新規教員の採用がこの2、3年のうちに必要となってきた。在校生や20代前半の若手を教員として採用し育てていきたい
- ・国家試験合格に向けた指導体制を敷いてはいるが、充分でない点もあるのではないかと。1、2年生から学習習慣をつけていくことが大切だ。
- ・卒業後もフォローする必要があるとあるが具体的な計画があるのか。
- ・卒業生を対象とした学校主催のセミナーを1年間に3、4回実施している、在学時にはなかなか扱えなかった、より臨床に即した内容で、ちょうど本日も行っている。
- ・鍼灸学科は学生の年齢差が非常にあるので、学生同士のコミュニケーションがうまくとれているわけではない。学校側がうまく工夫して、より良くしてほしい。
- ・一時ホスピスなどに見学に行かせたらいいのではないかと考えたが、いろいろ聞いたところ、やっぱりテーマが重すぎてちょっと厳しいかもしれないと思った。

《基準3 教育活動（柔道整復学科）》評価結果：適切である。

- ・業界のニーズの中心はもはや外傷の治療、後療ではなくなってきた。いわゆるマッサージといったリハビリ的なものを中心になってきているのではないかと。
- ・伝統的な外傷への対応というのはもちろんだが、加えて運動器疾患の鑑別、あるいはどのような手技を行っていくのかということも学生のうちから教育していく必要があるのではないかと。
- ・2023年度に附属接骨院を緑橋に設置した。
- ・1年生の時に療養費と実費との違いや、保険について充分理解させた上で実習に行かせているのはいいことだ。
- ・卒業後に、少しでもやり方をまねて、業界で勝ち残っていける方策を編み出してもらえればいいと思う。
- ・医師や歯科医師では柔道整復師の国家試験対策は充分ではないのではないかと。
- ・一部では通常授業の延長のような状況だったが、今は国家試験の直前に専任教員が担当できる科目を配置し、そこで全科目の国家試験対策が行えるようにカリキュラムを変更している。
- ・キャリア教育がうまくいかずに退学につながるケースがあるのではないかと。
- ・柔道整復学科においても近いうちに新しい教員を迎えることが必要になっている。若手の

教員を採用して育成していくことを考えていかないといけない。

- ・今年度の3年生は新カリキュラムで臨む初めての国家試験である。成果として現れてほしい。
- ・新カリキュラムでは国家試験対策が充実しているが、加えて実技の時間数も増えている。
- ・附属接骨院で実際に臨床の現場を見ること、あるいは直接患者に触れる機会を持つことは学習意欲の向上につながっているのではないか。
- ・附属の接骨院を構えている専門学校は多くあるが、実際にはそこまで患者が来ているわけではないだろう。そのような中で実習を行っているのも、実は学生同士で実習に見立てて行っている例もあるようだ。
- ・本校では幸いなことに附属接骨院にある程度の患者が来ていただいているので、接骨院等医療機関で働きながら通学している学生が少なく実際に学校で学んだ内容で患者に触れたりする場がない中、そのような経験ができているのであれば、卒業してから大きな力になるのではないか。
- ・技術のベースとしてコミュニケーション能力や聞く力、説明する力や気持ちを読み取る力などがすごく大事なので、いわば身体の気持ちを知るとか察するといったことを教えていただきたい。
- ・柔道整復学科だと若い学生が多いので、そういった点も一生懸命頑張ってくれるのではないか。
- ・柔整トレーナーコースはほぼ全員が高校新卒の学生というコースになるので、授業の中でのグループディスカッションや、様々なイベントにおいて学生に企画運営させるようなことに可能な限り取り組ませている。
- ・柔道整復学科は高校新卒の学生が多く、みんな仲がいい。
- ・学生に何のために勉強しているのかということをもっと分からせるために、現場に連れて行くのが一番いいと思う。
- ・国家試験もどんどん合格率を高めていただきたい。貴校に入学すれば確実に国家試験に通るということを知らしめてほしい。

《基準4 教育成果》評価結果：適切である。

- ・職業意識も含めて、細やかなケアをしてあげると1年生の退学者も少なくなるのではないか。
- ・資格を取った後に業団の会員に入れば、スポーツ大会のトレーナーや救護などの活動をする場を得ることができる。入会を勧めたい。
- ・学校の理念である命を大切にすることを十分に授業の中で伝えてほしい。
- ・卒業後3月に就職活動を始めて、4月から働き始めますという学生もかなりおり、そういった学生は卒業時の進路調査には表れてこない。
- ・学生の成績低迷者、下位者については、保護者あるいは保証人との連携が必要であろう。

《基準5 学生支援》評価結果：適切である。

- ・2024年度から学習支援センターを設けて、副センター長である元高校の校長先生に学習あ

るいは日常生活の指導を、特に成績下位者を中心にしていただいております、その結果、昨年に比べて、現時点で退学者はかなり減少している。

- ・学生はおおよそ2人に1人の割合で学生支援機構の奨学金を利用しているという実情がある。
- ・ここ数年、本校学生の卒業後の奨学金返還に係る延滞率が少しだけ伸びてきている。
- ・来年度からWebと電話相談を併用した学生相談のシステムを導入する予定だ。
- ・かつてと比べて学生の課外活動、クラブ活動は少し縮小傾向である。

《基準6 教育環境》評価結果：適切である。

- ・スポーツ臨床センターでスポーツ現場でのインターンシップの活動を一元化している。
- ・社会との接点をたくさん学生のうちに持てるような機会もスポーツ臨床センターで行ってほしい。
- ・INAC神戸とも連携している。主に柔整トレーナーコースで行っている。
- ・今、緑橋校舎の2階に聴覚障害の子供たちの通所施設が入居している。この施設で本校の学生が利用者と交流したり、ボランティアとしてお手伝いさせてもらったり、あるいはその施設の方から手話を教えていただくようなことができればいいと思っている。特に若い学生に、こうやって苦労しているお母さん方や子供たちが身近にいる環境があるので、そこで何かを感じ取ってもらいたい。
- ・いかに臨床現場を授業で学生に提供できるかが大切ではないか。ただ治療技術だけが良くてもダメで、コミュニケーションというか、患者さんとの接遇を大事にしないと難しいだろう。
- ・学校の施設設備については学生からもかなり高い評価を得られている。
- ・学校に残って勉強する学生も多いので、もう少し自習のスペースを作ってはどうか。
- ・介護分野で去年から義務化されている事業継続計画を私たちの団体でも作成してみたが、いろいろなことを知ることができて良かった。貴校にもお勧めする。
- ・本校には添え木が病院よりもたくさんあり、ベッドも持っているので、東成区と災害時の最初の救護活動の場所としての連携協定を締結している。ただし医師は連れてきていただく必要がある。

《基準7 学生の募集と受け入れ》評価結果：適切である。

- ・他校が学生集めに苦心する中、貴校は常に学生目線で学生の為になるような取り組みを行っていると感じる。
- ・これからの高校生もただ単に大学に行くよりも、自分の興味関心を活かすような様々な道が選択肢として増えていくと思う。その中で鍼灸師、柔道整復師というのが選択肢としてとても大事なものだと思っている。
- ・柔道整復学科の教員や学生が高校などに行ってクラブ活動などの支援をすることはとても素晴らしいことだ。高校生たちはあんな仕事があるのかとか、こういう症状に専門家はこう対処するのかということがわかる。そのような活動をこれからもっと拡げていただきたい。

- ・専門学校に行く生徒も減っていくはずなので、どのようにして増やしていくかが大切だ。ニーズをしっかりとつかまえて、こんないい職業があるということを高校生達に知らしめる活動を積極的にしていただきたい。
- ・どんどん少子化になっていくので、学生を引っ張り込むような施策をうまくやっていただくといいと思う。
- ・いろんな学校に行かれている非常勤の先生からは、本校の学生はすごくいい学生が多いと伺っている。授業中に忘れ物をしていることに気づき、職員室に一旦帰ってまた教室に戻ると、他校では学生は歩き回ったり、教室の中になかったりするが、本校ではみんな座って勉強しているとのことだ。
- ・学生募集について、薬剤師などダブルライセンスを求めている人はだめなのか。
- ・看護師などもオープンキャンパスに来てくれている。訪問看護ステーションを立ち上げる看護師が増えてきている。そこで医師と連携して同意書を書いて鍼灸治療もできればいいのではないか。
- ・夜間コースの学生が少し減ってきているから、仕事している人が来てくれたらいい。
- ・入試制度として医療資格者のための入試なども設定している。ただ、どこに訴えていくかが結構難しい。
- ・入学者の中に看護師は割といる。これからさらに増えるかもしれない。訪問リハなどもあるので理学療法士や作業療法士も時々入学してくれている。
- ・理学療法士は制度の改正により頭打ちになる時期がやってくるので、開業するために柔整など近い免許を取りにくる流れがあるかもしれない。
- ・大学卒業後に直接入学してもらってもいいなと思って、ある大学のキャリアセンターに行ったところ、専門学校に進学されたら進路実績として書けないじゃないですかとすごく怒られた。
- ・実際にライセンスを持っている方にアプローチする機会や場所が限られているので、本校が発信する情報を拾っていただいているのが実情ではないか。
- ・夜間コースに 70 歳くらいで卒業した看護師の方がおられたと思う。助産師もやっておられ、いい成績だったと記憶している。
- ・両学科 3 コースを設けているが、コースごとの偏りもなく割とバランスよく入学していただけている。
- ・両学科とも昼間コースが一番入学者数が少ない。かつては昼間コースから定員が埋まっていた。
- ・入学者数でいうと、鍼灸は今でもナンバーワンである。東京では三療の養成校で本校より多く集めている学校はあるが、はり師きゅう師だけの養成校としては一番多く入学していただいている。
- ・淘汰されて、やめていく養成校もあるのか。
- ・柔道整復師の夜間部においては淘汰は終わったのではないか。
- ・皆が皆、撤退していくという話になると、それは日本全体の医療や保健の大きな損失ではないか。
- ・今学生募集が踏ん張れている学校は大多数が鍼灸師や柔道整復師だけの学校ではなく、そ

の2学科で頑張っているのは貴校ぐらいではないか。

- ・鍼灸師という資格のポジションがものすごく多様になっている。鍼灸師がスポーツの分野に入っていくとか、あるいは介護の世界に入っていくように活躍の幅が広がってきている。看護師や薬剤師なども含めてもっと広がったらいい。
- ・全国的に大学の運営が厳しくなっていており、6割ぐらいが定員割れしているという報道も出ている。

《基準8 財務》評価結果：適切である。

- ・森ノ宮医療学園としては安定的な財務状況であるが、専門学校単体としてはちょっと厳しいところがある。

《基準9 法令等の遵守》評価結果：適切である。

- ・専門学校としてきちんと経営ができているというか、本当にいい加減な点が何一つないということを感じている。
- ・各種法令についてはきちんと遵守しており、ホームページでも各財務諸表等を公開できている。

《基準10 社会貢献》評価結果：適切である。

- ・学生が在校中から救護などを始めて、卒業してからも継続してやってくれる形になればいい。
- ・学生の学校外での活動の把握という点ではちょっと弱いのではないか。

以上